

平成20年度 内閣府青年国際交流事業

「青年海外派遣事業・Cambodia2008」

事後研修（帰国後の討論会の要旨）

1、物乞いについて

- ① ホームステイの人はあげていた
- ② スカウトの子も残ったご飯などを素直に上げていたし、お金も上げていた。
- ③ 国がまだ整備されていない状況では仕方ないのでは
- ④ 1ドル以下で生活している人も多し10ドルについて高いと思わない青年もいる
- ⑤ 身分の差があることは現時点ではやむを得ない
- ⑥ サービスの対価としてお金を払うのはいかなものか
- ⑦ 今の状況ではカンボジアはいつまでたっても変わらない。
- ⑧ 物乞いの人たちも、自立しようとする意欲が無いのでは
- ⑨ 自分の中であげるかあげないかは決まっていな。物乞いしなければ生きていけない人もいるのでは。働く意思はあるのだろうか。
- ⑩ 慈悲の心は悪いことでは無いように思うが。あげるべきか、あげないべきかの議論は難しい。
- ⑪ 日本の感覚で対応しては難しいのでは。日本の状況は
- ⑫ 戦後の日本はどのようにして乗り越えてきたのではないだろうか。復興するための技術を持っていた。
- ⑬ カンボジアはポルポトと内戦によりフックする力が少なくなった。
- ⑭ 自分の価値観で判断してよいのでは
- ⑮ カンボジアの人々に考えてもらうことが大事では。（日本のことは日本人が考える）
- ⑯ ホームステイでは：自分には上げなくて

良いといいながら、自分たちは上げていた。

- ⑰ 富の再分配、資源のさい配力が整っていないのでは
- ⑱ カンボジアの政府はどうなっていたのか、賄賂などもあったのだろうか。
- ⑲ 人材が育っていない
- ⑳ 法整備ができていない
- ㉑ 社会制度ができていない。



<森本さんの話に聞き入る>

2、山路さんや森本さんとの出会い

- * 山路さん：シニアボランティアの方
- * 森本さん：カンボジアに伝わる織物の伝統を復活継続されている方

- ① 何が山路さんをそうさせたのだろうか
- ② 自分がやりたかった、そのことが結果的に人のためになってきているのでは
- ③ やる気があって行動力のある人が日本から出て行ってしまっている
- ④ 日本を変える人材になってほしい。
- ⑤ 日本はそれが容易ではないのでは
- ⑥ 森本さんは、カンボジアの無くなりつつある織物の伝統をつなげたことはすばら

しかった。

- ⑦ 海外で活躍している日本人はどこまで溶け込めるのだろうか。現地の人との信頼関係をどう作るか。大きな課題。ただしこの国の人たちも誠意を持って付き合いえばわかりあえるように思う。
- ⑧ 森本さんの村づくりについて:人間関係、信頼関係の上に村づくりができた。
- ⑨ 補助器具を作ること
- ⑩ 日本でも信頼できない人もいる。海外ではさらに厳しいこともある。
- ⑪ どうしても超えられない壁があることもあるので、安易に誰かのまねをしようとするのはとても怖いことである。
- ⑫ 貧しさからきている、不信感系もある。
- ⑬ 今回のみで、カンボジアの国民性を理解することは難しいと思った。
- ⑭ 違いを楽しむ根気と考え方を持っていないと、とても難しい。
- ⑮ 外国人はいざとなると国外へ逃げられるが自分たちはそうは行かない。
- ⑯ 外国人という壁があることをきちんと認識して行動する必要がある。

3、倉田ペッパー

- ① 自分がやりたいことがぴったりあったのでは、もともと現地に合ったものに目をつけた
- ② カンボジアの人たちを雇いお互いに良い関係であるが、辞める人もいる
- ③ フェアトレードについて、もともとから生産者、選別作業員、販売者、全てフェアで行くことが基本であった。
- ④ 世界の標準より10倍高い値段であるが、どなたが来られても一切値引きはしないことを従業員一同で確認している。
- ⑤ 利益最優先の会社あるけどここは違っていた。

4、学生との交流

(スカウト、青少年局招聘青年、王立大学、YAC)



- ① 理屈抜きにして楽しかった
- ② 一般の学生との交流したかった、公園であった若者 etc
- ③ 受け入れ態勢のない若者との交流
- ④ 歓迎してもらい嬉しかったけど、自分は東京でカンボジアの青年を受け入れることができたのだろうか。今後心開いて受け入れたい
- ⑤ カンボジアの青年たちは自分たちと交流をしたがっていたのではないだろうか。
- ⑥ 日本のことを知りたがっている若者が多くいたように思う。
- ⑦ カンボジアの大学生は学ぼうとする意識が高い感じがした。
- ⑧ 積極的に、学ぼうとする姿勢を感じた。
- ⑨ 日本青年の普段の生活のタイムスケジュールを聞かれた。
- ⑩ 日本人の勤勉さを学びたいと思っている青年もいた。
- ⑪ 日本のような復興をしたいと思っている。
- ⑫ 学校自体が多国籍のような感じがした。
- ⑬ 一方、学校をサボる学生も増えてきている。
- ⑭ 日本語学校
- ⑮ 違う仲間とも交流できたらよかった。
- ⑯ いろいろな協力関係が継続できるように努力したい。
- ⑰ メールなど使って大いに交流をした、しばらく連絡が無いことをあまり心配しない)

5、内戦と地雷

- ① 博物館にいてショックであった。
- ② 博物館を大切に保管してほしい。
- ③ 地雷は都市部には無いが、カンボジア＝地雷と言うイメージが強い
- ④ 今でも600万発あるといわれており、完全撤去まであと300年くらいかかるともいわれていた。

6、スラムの学校&ホームステイの交流

- ① 最初は言葉が通じずなくて、つらいと思ったが言葉は無くても活動の中で一番楽しかった。
- ② ことばは大切だけど、言葉が無くても交流はできると思った。
- ③ 言葉が要らない交流もあってよいが言葉があてさらに深い交流ができるような気がする。
- ④ 自分もクメール語を学びたいと思った。
- ⑤ 小学校やスカウトとの交流のときに、言葉ができず行き違いが生じた。
- ⑥ 交流の目的は何か
- ⑦ 共通する何かがあれば言葉は足りなくても通じる部分もある。
- ⑧ 日本と違って、子どもたちの笑顔がいっぱいで活気があった。ものが無いからこそ素直な心が育っているように思えた。教えられたな。
- ⑨ 物質的な豊かさに恵まれている日本と、物は足りないが何か豊かさを感じた。
- ⑩ 豊かさの基準はなにか
- ⑪ 物質的な豊かさと精神的な豊かさの違いは何か。
- ⑫ 子どもの笑顔はどこでも同じだと思う。どこの子もかわいい。基本的なことは同じだと思う。カンボジアの子はすごく純粋に思えた。

7、観光地

- ① 遺跡を修復しているが観光化に間に合わない感じ、過熱気味。
- ② 急激な観光化による弊害が心配。

- ③ 儲かるのは旅行者だけといった感じがする。
- ④ 郊外の遺跡も修復し、観光地の分散化をはかってみる。
- ⑤ 自分の国のことではないので、開発はしないほうが良いと思うけど、難しい。
- ⑥ エコ開発という名の乱開発
- ⑦ 滞在期間が短い

8、タケオ訪問

- ① 村の形を具体的に見ることができた。農村見学
- ② 農村開発による農業組合の設立と人材育成
- ③ ODAのあり方について。
- ④ 魚も養殖していた
- ⑤ 米は年に1回しか取れない。
- ⑥ 農村開発の重要性

9、カンボジアの町並み風景&市場

- ① 早朝から活気があった。
- ② 交通ルールはあるけどほとんどの人が守らない。無秩序状態で。事故も結構頻繁に起きている。
- ③ 緊急車両は少ない。
- ④ 昔は人口も少なくまた生ごみで処理できていたが、最近ではビニールやペットボトルがその場に捨てられていて、ますます汚くなってきている。
- ⑤ 人口も増えてきていて大きな課題になりそうである。
- ⑥ 食事は外で食べる習慣があり、ステイ中に自分もご馳走になった。
- ⑦ 食事中に影絵やCambodia文化を見ることができた。

